

平成 27 年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人和歌山大学

1 全体評価

和歌山大学は、「地域を支え、地域に支えられる大学」であるとともに、持続可能な社会の実現に寄与することを目指している。第2期中期目標期間においては、現代学生の青年期に至る人間形成上の諸課題を深く認識し、教養教育、専門教育によって「生涯学習力」を培った市民・職業人として社会に参加し、その発展に寄与できる人間を育てること等を目標としている。

この目標達成に向け、学長のリーダーシップの下、観光学における世界的な教育研究拠点を目指し、国連世界観光機関の賛助会員として認証を受けているほか、安全衛生講演会を開催して教職員及び学生の防災意識を高めている。また、システム工学部を10メジャーの1学科制へ再編し、広範な理工系分野で活躍する自立的な高度技術者の育成を可能としているなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

第2期中期目標期間において、観光学分野で世界トップクラスの大学との連携実績を生かした「国際観光学センター」を設置し、世界一線級の外国人研究者を招へいするとともに、我が国初の国連世界観光機関の観光教育・訓練・研究機関認定(tedQual)の取得等を通じ、アジアにおける観光研究ハブを形成することを目指した「戦略性が高く意欲的な目標・計画」を定め、積極的に取り組んでいる。

平成27年度は、観光学で世界をリードするサリー大学(英国)等から6名の研究者を同センター特別主幹教授として招へいすることとし、うち3名の研究者と雇用契約を締結するなど、センターの開設に向けた準備を進めている。さらに、フィリピン大学アジア観光学部と連携協定締結に関する交渉を進めるとともに、サリー大学及びクイーンズランド大学(オーストラリア)のアドバイスの下、国連世界観光機関における観光教育・訓練・研究機関としての認定(TedQual)の取得に向けた準備を進めている。

大学の機能強化に向けた取組の状況について

教育学部における「初任者研修の高度化モデル事業」に平成25年度・26年度に参加した初任者教員全員のフォローアップを各勤務校において実施し、この取組を発展させて平成28年度に教職大学院を設置することとしている。さらに、事務組織の改革として、各学部に分散していた教務事務を統合し、学生へのワンストップサービス化、事務の集中一元化・効率化を図っている。

2 項目別評価

<評価結果の概況>

| | 特 筆 | 順 調 | おおむね 順調 | やや遅れ | 重大な 改善事項 |
|-------------------|-----|-----|------------|------|-------------|
| (1) 業務運営の改善及び効率化 | | ○ | | | |
| (2) 財務内容の改善 | | ○ | | | |
| (3) 自己点検・評価及び情報提供 | | ○ | | | |
| (4) その他業務運営 | | ○ | | | |

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ クロス・アポイントメント制度を活用した優秀な人材の確保

国内外から優れた人材を確保し、教育、研究及び産学連携活動の一層の推進を図るため、クロス・アポイントメント制度を整備し、平成27年度は海外からの研究者3名を雇用している。

○ 時代や社会の要請に沿った教育研究組織の見直し

附属機関に求められる役割や大学全体の教育研究機能の向上を目的に「附属機関のミッション再定義」を実施し、センター組織の再編を行うとともに、教員養成教育の更なる充実・強化を図るため、教職大学院を平成28年度に開設することを決定するなど、時代や社会の要請に沿った教育研究組織の見直しを行っている。

○ 教員組織一元化の検証

一元化した教員組織において、採用・昇任・兼務等に係る決定を全学的な視点から実施するとともに、この効果等の検証を行い、教員組織一元化が順調に機能していることを確認している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 地域と連携した防災訓練及び防災意識の向上

市民1万1,000人が参加した和歌山市主催の和歌山市総合防災訓練に協力し、地域住民の災害発生時の対応方法を確認しているほか、「南海トラフの巨大地震が発生すると大学周辺はどのような災害が発生するのか」と題した安全衛生講演会を開催し、教職員及び学生の防災意識を高めている。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 留学生教育及び地域との国際交流の推進

留学生数の増加や留学生の様々な日本語レベルに対応できるよう、教員1名を増員し、日本語教育体制を強化するとともに、「日本文化入門」、「ライティング」科目、初級者向けのクラス及び文化体験事業「JAPAN STUDY『狂言ワークショップ』」を新たに開設するなど、留学生教育の充実を図っている。また留学生の地域との交流活動として小・中学校等の教育現場や国際交流団体のみならず、和歌山市、和歌山商工会議所、和歌山県立医科大等との交流を新たに開始し、地域の国際化のより一層の推進に向けて取り組んでいる。

○ 学生自らによる学修支援体制の整備

附属図書館では、学修支援体制・学修環境の充実を図るため、館内の利用案内や選書ツアー等の業務を担う「学生サポーター」を組織し、サポート活動を開始するとともに、大学院生が「ラーニング・アドバイザー」となり学部生に学修支援を行っている。

○ 外部資金獲得者へのインセンティブ付与と研究シーズの発掘体制の構築

外部資金獲得者のうち、外部機関により論文等の評価を受けた研究や新聞掲載等により研究内容が紹介された研究に関して学内で審査・選考の上、インセンティブとして研究費の配分を行っている。また、産学官連携コーディネーターとして県内中小企業への技術支援や提案型公募事業の経験者を採用するとともに、大阪府立大学と連携して「工学研究シーズ合同発表会」を開催するなど、研究シーズの発掘を一層促進する体制を構築している。